

HOME

(1) 履歴

2017.1.1.現在

橋本努（はしもと・つとむ）

1967年12月29日東京都中野区生まれ

勤務先住所：〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西7丁目 北海道大学大学院経済学研究科

研究室直通 Tel: 011-706-2777

学部共用 Fax: 011-706-4947

学歴

1980. 3. 横浜市立美しが丘小学校、卒業

1983. 3. 横浜市立あざみ野中学校、卒業

1986. 3. 神奈川県立川和高校、卒業

1986. 4. 横浜国立大学経済学部国際経済学科、入学

1990. 3. 横浜国立大学経済学部国際経済学科、卒業（卒論：『貨幣発行自由化論』と貨幣システム）、指導教諭：鬼塚雄丞教授、国際金融を研究）

1990. 4. 横浜国立大学経済学部大学院、修士課程進学（指導教諭：斎藤純一助教授、社会思想史を研究）

1991. 4. 東京大学大学院、総合文化研究科、関連社会科学専攻、修士課程へ入学（指導教諭：松原隆一郎助教授、経済思想を研究）

1993. 3. 学術修士号取得（論題：「開かれた社会の思想的基礎——ポパー・ミーゼス・ハイエクにおける方法の思想負荷性の問題」）

1993. 4. 東京大学大学院、総合文化研究科、関連社会科学専攻、博士課程進学

1995. 4. 日本学術振興会特別研究員となる。

1996. 3. 東京大学大学院、総合文化研究科、関連社会科学専攻、博士課程単位取得退学

1999. 9. 学術博士号（課程博士）取得（論題：「方法と人格——プロジェクトとしての自由主義」、東京大学大学院総合文化研究科）

職歴

1993. 4. - 1994. 3. ティーチング・アシスタント（東京大学における授業の補佐）。

1995. 4. - 1996. 3. 横浜国立大学工学部（第二部）非常勤講師（経済学）、および東洋大学社会科学部（第二部）非常勤講師（社会学）。

1996. 4. 北海道大学経済学部、専任講師となる。担当講義科目「経済思想史」

1998. 4. 北海道大学経済学部、助教授となる。(2007.4.より「准教授」へ名称変更。)
1998-2000. 弘文堂『政治学事典』編集協力
2000. 7. -2002. 6. ニューヨーク大学経済学部客員研究員
2003. 4. -2003. 5. 台湾、朝陽技術大学財務金融系、集中講義(4/23-5/2)
2004. 2. 韓国ハイエク協会、年次フォーラムにおける招待講演(2/20-2/21)
2004. 11. 九州大学 21世紀プログラム集中講義
2006. 5. 韓国社会経済学会、招待講演(5/18-5/20)
2008. 4. -2010. 3. 朝日新聞合評委員
2008. 9. 相国寺(京都)連続講義(「現代イデオロギー論」2008年9月8日(月)、
12日(金)、17日(水)、25日(木))
2008. 10. -2014. 9. 日本学術振興会連携会員
2011. 4. 北海道大学大学院経済学研究科教授となる。
2011. 10. 北海道大学大学院「地域経済経営ネットワーク研究センター」研究委員
2012. 4. 北海道大学出版会編集委員。2014. 7. 同役員。
2016. 8. -2016. 10. エクス・マルセイユ大学(フランス)訪問研究員

(2) 研究業績

【単著】

- [1]『自由の論法——ポパー・ミーゼス・ハイエク——』創文社(自由学芸の騎士シリーズ)
1994.12.10.刊行.
- [2]『社会科学の人間学——自由主義のプロジェクト』勁草書房 1999.9.5.刊行.
- [3]『帝国の条件——自由を育む秩序の原理』弘文堂、2007.4.15.刊行.
- [4]『自由に生きるとはどういうことか——戦後日本社会論』ちくま新書、2007.11.10.刊行
- [5]『経済倫理=あなたは、なに主義?』講談社メチエ、2008.8.10.刊行
- [6]『自由の社会学』、NTT出版、2010.12.16.刊行
- [7]『経済倫理と現代イデオロギー』相国寺教化活動委員会、2009年3月、刊行(非売品).
- [8]『ロスト近代 資本主義の新たな駆動因』弘文堂、2012年5月刊行
- [9]『学問の技法』ちくま新書、2013年1月刊行

【編著】

- [1]『マックス・ヴェーバーの新世紀』橋本努・橋本直人・矢野善郎編、未来社、2000.
- [2]『オーストリア学派の経済学 体系的序説』尾近裕幸・橋本努編、日本経済評論社、
2003.3.
- [3]『経済思想 第8巻 20世紀の経済学の諸潮流』橋本努責任編集、2006年5月刊行。
シリーズ『経済思想』鈴木信雄・塩沢由典・八木紀一郎・大森郁夫・坂本達哉・吉田雅明・
橋本努編、日本経済評論社(全11巻)2004-
- [4]『日本マックス・ウェーバー論争 「プロ倫」読解の現在』橋本努・矢野善郎編、ナカ
ニシヤ出版、2008年7月刊行

[5] 『現代の経済思想』 橋本努編、勁草書房、644 頁、2014 年 10 月刊行

【共著】

[1] Synodos presents 芹沢一也監修、桂秀美、橋本努、鈴木謙介、荻上チキ著『革命待望！1968 年がくれる未来』ポプラ社 2008.4.27. 260 頁.

[2] 大澤真幸・齋藤美奈子・原武史・橋本努著『1970 年転換期の『展望』を読む 思想が現実だった頃』筑摩書房、2010 年 12 月 25 日刊行.

[3] 大澤真幸・塩原良和・橋本努・和田伸一郎著『ナショナリズムとグローバリズム 越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014 年 8 月刊行、345 頁。

[4] 『ハイエク——自由のユートピアを求めて』日本経済新聞社（松原隆一郎先生との共著、予定）.

【英文論文】

[1] “The purpose and significance of the methodology of the social sciences in the age of scientism”, in Economic Journal of Hokkaido University, vol.29, 2000.7.

[2] “On the Sense of Equilibrium,” paper presented at the Austrian Colloquium of New York University, 2001.10.

[3] “The Immanence of the Invisible Hand,” paper presented at the Hokkaido meeting of the history of economic ideas, 2002.12.14.

[4] “On Market Order: Four Tensions on Market Theories in Neo-Austrian Economics,” paper presented at the Annual Meeting of the Association of the History of Economic Ideas in Japan, 2003.5.24. (in Kyoto)

[5] “Japan’s Lost Decade and the Structural Reform: From a Hayekian Perspective,” in Annual Forum Pamphlet of Korean Hayek Society in 2004, (a paper presented at Korean Hayek Society 2004.2.20. at Bukak Park Hotel in Seoul.)

[6] “Carl Menger and the Later Austrian School of Economics: An Analysis of their Methodological Relationship,” (a paper presented at Carl Menger International Symposium, at Hitotsubashi University, 2004.12.19.)

→published in International Symposium Carl Menger and the Historical Aspects of Liberalism, Center for Historical Social Science Literature Hitotsubashi University, 2005, pp.69-81.

→ published in Austrian Economics in Transition: From Carl Menger to Friedrich Hayek, eds. by Harald Hagemann, Tamotsu Nishizawa and Yukihiro Ikeda, Palgrave Macmillan, 2010, pp.310-328.

[7] “On the Concept of Positive and Negative Freedom,” IVR paper on May 2005.→ published in José Rubio Carrecedo ed., Political Philosophy: New Proposals for New Questions, Proseedings of the 22nd IVR World Congress Granada 2005, volume II, Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie (ARSP) Beiheft Nr.107, Franz Steiner Verlag, 2007, pp.73-78.

[8] “Reformulation of the Theory of Spontaneous Ordering,” a paper presented at the annual conference of Korean Socio-Economic Society, May 19th, 2006.

[9] “A Theoretical Reconstruction of Hayek’s Spontaneous Ordering,” a paper presented at the 19th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, 4-7 July, 2006.

[10] "Ideological Categories in Economic Thought"(Session 4: Religion, Ethics and Economics, Session Chair: John Vint) at Annual Conference of History of Economic Thought in Australia, on 4th, July, 2013, at University of Western Australia, Business School.

→Hashimoto Tsutomu, “Ideological Categories in Economic Ethics,” in 冊子『朝暘科技大学 跨域整合 學産升格論壇 大会手冊』、2015年5月刊、17-30頁、所収。

→Liberalism and Chinese Economic Development: Perspectives from Europe and Asia, Monday, September 12, 2016 - 2:00pm to Tuesday, September 13, 2016 - 5:30pm, Aix-Marseille University, France.

[11] "On demarcation problem between libertarianism and neoliberalism" in XXVI World Congress of Philosophy of Law and Social Philosophy, 21st to 27th July 2013, Campus of the Federal University of Minas Gerais (UFMG), Belo Horizonte, MG, Brazil. on 23rd, session: Law and State, ID=302.

XXVI World Congress of Philosophy of Law and Social Philosophy

[12] “A Theory of Methodology in Social Sciences: A Functional Analysis” 『法学論集』(千葉大学)第29巻、第1・2号、2014年8月刊行、596(27)-560(63)頁、所収(拙著『自由の論法』第一章の翻訳)

[13] “Discourses on Neoliberalism in Japan,” in Eurasia Border Review, Vol.5, No.2, Fall 2004, pp.99-119. (査読付き)

[14] “Capability as Potentiality,” paper presented at The 13th Conference of the International Society for Utilitarian Studies, 2014.8.21. at Yokohama National University.

[15] “Interview with Gregoire Canlorbe,” mineo

【論文】

- [1] 「ハイエクの迷宮：方法論的転換問題」『現代思想』vol.19-12, 1991-12.
- [2] 「転職意思決定についてのグループ・インタビュー」ライズコーポレーション株式会社における分析報告書,1991.
- [3] 「ポパーの学習論と世界4論」Popper Letters, vol.4.no.1,1992.
- [4] 「《歴史主義》批判の貧困」Popper Letters, vol.5.no.1,1993.
- [5] 「自生的秩序論の解体」『創文』no.343, 1993-5.
- [6] 「知識経済学は可能か～バートリーへの疑問～」 Popper Letters, vol.5. no.2, 1993.
- [7] 「経済学方法論の変革（訳者解題）」デボラ・A・レドマン著『経済学と科学哲学』文化書房博文社 1994.所収.
- [8] 「秩序の移植」Popper Letters, vol.6.no.1,1994.
- [9] 「C. メンガーの方法論とその分岐——方法の思想負荷性を視軸にして——」『関連社会科学』no.4.1994.9.（大学の紀要論文）
- [10] 「『世界4』論」河上倫逸／長尾龍一郎編『開いた社会の哲学——カール・ポパーと現代』未来社 1994.
- [11] 「フリードリッヒ・A・ハイエク——社会の自生的秩序化作用の利用」大田一廣／鈴木信雄／高哲男／八木紀一郎編『経済思想史——社会認識の諸類型——』名古屋大学出版会 1995.3.
- [12] 「A. シュッツの方法論に関する批判的考察——オーストリア学派との関係から——」『社会学評論』vol.46.No.2,1995.10月号.
- [13] 「貨幣の自己準拠と遂行的秩序論」『経済社会学会年報』第17号, 1995.10.
- [14] 「自由の論法——補遺」『自由な社会の条件』ライブラリー関連社会科学3号、新世社,1996.7.
- [15] 「ルーマンの学問論をめぐり一考察」『経済学研究』北海道大学経済学部紀要 1996.12.
- [16] 「経済倫理学の関連科学的研究——P・コスロフスキーの企図を検討する」『経済社会学会年報』第18号, 1996.10.
- [17] 「科学と社会の呼応」Popper Letters, vol.8.no.1,1996.
- [18] 「近代主体——学園闘争における折原浩の学問-政治論（上）」『情況』1996年12月号、90-102頁。
- [19] 「近代主体——学園闘争における折原浩の学問-政治論（中）」『情況』1997年1-2月合併号、174-182頁。
- [20] 「近代主体——学園闘争における折原浩の学問-政治論（下）」『情況』1997年3月号、68-81頁。
- [21] 「折原浩の学問教育論——ウェーバーと現実との対決——」『ヴェーバー・デュルケーム・日本社会——社会学の古典と現代』（折原浩記念論文集）関連社会科学有志編、ハーベスト社、214-247頁、所収。2000.6.

- [22] 「解釈と『問題主体』——チャールズ・テイラーの『自己解釈的存在』とその対案——」『経済学研究』北海道大学経済学部紀要 1997.9.
- [23] 「自由主義の現代的意義」『理論戦線』第 54 号, spring,1998, pp.48-64. (新聞 SENKI,1998.1.25. and 1998.2.5. からの再録)
- [24] 「闘争する主体——全共闘から自由主義への思想的継承」『情況』1999 年 4 月号、39-58 頁.
- [25] 「ウェーバー的問題の今日的意義——シンポジウム『マックス・ヴェーバーと近代日本』に向けて」『未来』1999.10, pp.1-5.→橋本努・橋本直人・矢野善郎編『マックス・ヴェーバーの新世紀』未来社、2000.再録
- [26] 「ハイエクの進化論に関する考察」(1999 年度、経済学史学会大会報告集、pp.150-154 所収) 1999.11.
- [27] 「ジョージ・ソロス——開かれた社会への戦略」『インターコミュニケーション』NTT 出版、1999.11, 2000 winter 号, pp.160-176.
- [28] 「自由な社会はいかにして可能か？」大澤真幸編『社会学の知 33』新書館、所収、2000.4.
- [29] 「社会科学と主体——ウェーバー研究の根本問題」橋本努・橋本直人・矢野善郎編『マックス・ヴェーバーの新世紀』未来社、2000.所収
- [30] 「現実認識とは何か——形相的理念型による啓蒙」『情況』「特集 マックス・ヴェーバー再考」2000 年 7 月号、6-20 頁、所収.
- [31] 「入試制度をあらためて「知」の成長を加速化せよ」『論座』2000 年 10 月号所収, pp.240-251.
- [32] 「『世界 4』論の射程」日本ポパー哲学研究会編『批判的合理主義 1 基本的諸問題』未来社 2001、所収.
- [33] 「アメリカが持つヘゲモニーの再編 テロ事件後の世界を考える」『理戦』67 号、2001 winter 号、pp.50-66.
- [34] 「テロリズムの弁明」『情況』2002.3, pp.188-209.
- [35] 「ネオ・オーストリア学派の研究動向」『経済学史学会年報』第 42 号 2002.11, pp.118-127.
- [36] 「アルカイダ組織とポスト・モダニズム」『情況』2003.3, pp.152-171.
- [37] 「ミーゼス」尾近裕幸・橋本努編『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、所収、尾近裕幸氏との共著、2003.3, pp.89-113.
- [38] 「方法論」尾近裕幸・橋本努編『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、所収、Leslie Webb 氏との共著、2003.3, pp.151-174.
- [39] 「知識論——リッツォ」尾近裕幸・橋本努編『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、2003.3, pp.199-222.
- [40] 「市場プロセス」尾近裕幸・橋本努編『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、2003.3, pp.245-270.
- [41] 「オーストリア学派経済学とは何か：理解と発展のために」尾近裕幸・橋本努編『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、2003.3, pp.367-381.
- [42] 「1968 年革命と全能感希求 文芸的アイロニストから自由主義への継承」『重力』2003.3, pp.112-128.

- [43] 「9.11 事件以降の四つのイデオロギー」(SENKI2003.1-2.) →大幅に変更したものを『理戦』no.72, 2003. spring, pp.94-111.へ所収
- [44] 「帝国の政治哲学(1)——新たな資本の論理」『情況』2003.6, pp.160-171.
- [45] 「リチャード・ローティを脱構築する」『理論戦線』no.74, 2003, autumn, pp.66-87.
- [46] 「ウェーバーは罪を犯したのか——羽入-折原論争の第一ラウンドを読む」『未来』2004.1, No.448, pp.8-17. →『日本マックス・ヴェーバー論争』ナカニシヤ出版、2008、295-305 頁、所収
- [47] 「分析的マルクス主義と自由主義」『思想』2004.9. no.965. 140-157 頁
- [48] 「リバタリアニズム論」日本法哲学会 2004.11.13.における発表原稿 (未刊)
- [49] 「自由としての配分：配分原理の自由主義的基礎」仲正昌樹編『叢書アレティア 5 共同体と正義』御茶の水書房、2004.12. 25-49 頁、所収
- [50] 「ポスト近代社会の進化論：社会の発展は自生化主義で見よ」『理論戦線』no.80, 2005 Summer, pp.124-145.
- [51] 「自由主義と公共性：公共彫刻広場モデルの提案」仲正昌樹編『叢書アレティア 7 グローバル化と市民社会』御茶の水書房、2006. 233-266 頁、所収
- [52] 「自己所有権型リバタリアニズムの批判的検討」『法哲学年報 特集リバタリアニズムと法理論』2004(2005 年 9 月発行)、18-29 頁.
- [53] 「F.A.ハイエク——人間像の考察」橋本努責任編集『経済思想 第 8 巻 20 世紀の経済学の諸潮流』日本経済評論社 2006.6, pp.249-307.
- [54] 「左右田喜一郎——真・善・美にならぶ貨幣」鈴木信雄責任編集『経済思想 第 10 巻 日本の経済思想 2』日本経済評論社 2006.8, pp.397-440.
- [55] 「公共性の成長論的再編」井上達夫編『公共哲学としての法哲学』ナカニシヤ出版 2006.11, pp.70-91.
- [56] 「左右田喜一郎の貨幣と理性——若き知性と晩年の思索についての補論」『経済学研究』(北海道大学) 第 56 巻 2 号、2006.11, pp.147-152.
- [57] 「あなたはなに主義?——経済倫理上の一貫した立場形成に関する研究」(京都国際高等研究所における発表原稿) 2006.2.→研究代表者/田中成明『国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成』財団法人国際高等研究所、2007.12, pp.9-38.
- [58] 「クリントン政権の『福祉から就労へ』」『理論戦線』no.84, 2006, summer, 102-117 頁.
- [59] 「レオ・シュトラウスの『公儀』と『秘儀』——イラク戦争を正当化する政治思想の根源」『RATIO』no.2, 2006, autumn, pp.182-208. (朝日新聞 2006.12.4.夕刊「06 年論壇回顧」の一点となる。)
- [11b] 「フリードリッヒ・A・ハイエク——社会の自生的秩序化作用の利用」大田一廣/鈴木信雄/高哲男/八木紀一郎編『経済思想史——社会認識の諸類型——』名古屋大学出版会 1995.3.この修正版を、『[新版] 経済思想史——社会認識の諸類型——』名古屋大学出版会 2006.9. 274-287 頁へ所収.
- [60] 「ケインズとハイエクを止揚する地平」『大航海』2006.12, pp.117-127.
- [61] 「郵政民営化にみる公共性の再編」『公営企業』2007.5, pp.2-11.
- [62] 「マックス・ヴェーバー論争へようこそ」『日本マックス・ヴェーバー論争』ナカニシ

ヤ出版、2008、1-15 頁。

[63]「グローバルな公共性はいかにして可能か」井上達夫編『岩波哲学講座 第10巻 社会/公共性の哲学』2009年、151-168頁、所収。

[64]「自由主義左派の新たな論理——ネグリ／ガタリ著『自由の新たな空間』に寄せて」『情況』7-8月号、pp.74-86。

[65]「NHK改革論」仲正昌樹編『叢書アレティア9 社会理論における「理論」と「現実」』2008年2月刊行、pp.213-254。

[66]「世界政府の作り方」『世界』2007年12月号、pp.118-128。

[67]「新自由主義批判」『情況』2008年1-2月号、pp.89-97。

[68]「スラブ研究と帝国の概念」21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」総括シンポジウム「スラブ・ユーラシア学の幕開け」における報告原稿2008.1.24。(東京神田学士会館)→「現代ロシア帝国論」『情況』2008年5月号、pp.156-173(報告原稿「スラブ研究と帝国の概念」を修正したもの)

[69]「対抗的創造主義を生きよ!——「労働論の根本問題」に応える」『思想地図』第二号、93-114頁。

[70]「だれも新自由主義を全否定できない」芹沢一也・荻上チキ編『日本を変える「知」 「21世紀の教養」を身に付ける』光文社、2009年5月刊行、281-342頁、所収。

[71]「マルクス派に関する11のテーゼ」『情況』2009年6月号110-117頁、所収。

[72] 報告原稿「民主主義の二類型と立法過程」井上達夫代表、科学研究費補助金研究成果報告書「立法学の公共哲学的基盤構築」2009年3月刊行、59-69頁、所収

[73]「ベーシック・インカム論」『生活経済政策』no.154、2009年9月号、27-30頁、所収

[74]「経済倫理の地殻変動——引き裂かれた自己の非包摂倫理」『創文』2010年1-2月号、1-5頁、所収

[75]「全的自由の立場」仲正昌樹編『叢書アレティア12 自由と自律』御茶の水書房、2010年9月刊行、23-50頁、所収

[76]「責任型民主主義と熟成型民主主義」(仮題)井上達夫編『立法過程(仮題)』、予定

[77]「グローバル化の逆説——新自由主義批判がはぐくむ越境ネットワーク」押村高編『政治の発見 第八巻 越える』風行社、2010年12月刊行、103-136頁、所収

[78]「ポスト・フォーディズムの問題圏 対抗的創造性の理念」本田由紀編『労働再審 第一巻』大月書店、2010年11月刊行、255-285頁、所収

[79]「エクソダス 第二経済成長期はいかにして可能か」『at2 プラス』2010年8月号、118-129頁、所収

[80]「四つの経済哲学——経営者の価値観は?」『経営倫理』2011年2月号、11-13頁、所収

[81]「秩序のトゥリアーデ論 井上達夫の自由論」『学術の動向』2011年1月号、84-86頁、所収

[82]「サンデルの核心を批判する」『TASC』2011年2月号、8-13頁、所収

[83]「いま目の前にある危機の本質——原発事故を考える」『情況』2011年6-7月合併号、115-127頁、所収

[84]「チャールズ・テイラー」大澤真幸編『3.11以降の思想家25人 シンキング・オー

別冊』所収

- [85] 「ケインズと新自由主義——市場と国家のベストミックスは可能か？」ケインズ学会編、平井俊顕監修『危機の中で〈ケインズ〉から学ぶ 資本主義とヴィジョンの再生を目指して』作品社、192-215 頁、所収
- [86] 「グリーン・イノベーション論」『地域経済経営ネットワーク研究センター年報』第一号(北海道大学)2012 年 3 月、75-96 頁、所収
- [87] 「法と公共性——立法過程における四段階の公共空間」『法の理論 31 特集《公共性と法》』成文堂、57-77 頁、所収
- [88] 「可謬主義と熟成主義の立法過程論」井上達夫編『立法学のフロンティア 1』ナカニシヤ出版、2014 年 7 月刊行、150-168 頁、所収
- [89] 「高田保馬の勢力説」猪木武徳+マルクス・リュッターマン編『近代日本の公と私、官と民』NTT 出版、2014 年 10 月刊行、249-264 頁、所収。
- [90] 「「新自由主義」批判の変容 ラッツァラートとロルドン」『経済社会学会年報』XXXVI 号、2014 年 9 月刊行、140-149 頁、所収(査読付き)
- [91] 「労働——理想の仕事とは何か」橋本努編『現代の経済思想』勁草書房、2014 年、115-138 頁、所収。
- [92] 「福祉国家の哲学的基礎（上） 潜勢的可能性としてのケイパビリティ」『思想』2015 年 4 月号、no.1092、51-71 頁、所収
- [93] 「福祉国家の哲学的基礎（下） 潜勢的可能性としてのケイパビリティ」『思想』2015 年 5 月号、no.1093、68-87 頁、所収
- [94] 「コミュニタリアニズムのために 概念の再規定」『相関社会科学』第 25 号、2015 年 3 月 1 日発行、123-128 頁、所収
- [95] 「テロリズムとの戦争」西谷修ほか共著『戦争思想 2015』河出書房新社、148-159 頁、所収
- [96] 「自律していない者たちの社会契約——リバタリアン・パターナリズム論の射程」内田隆三編『現代社会と人間への問い いかにして現在を流動化するのか?』せりか書房、2015 年 11 月刊行、377-397 頁、所収
- [97] 「リバタリアニズム批判 いかなる介入を正統化すべきか（上）」『思想』2016 年 8 月号、第 1108 号、63-77 頁、所収
- [98] 「リバタリアニズム批判 いかなる介入を正統化すべきか（下）」『思想』2016 年 9 月号、第 1109 号、109-129 頁、所収
- [99] 「経済倫理教育の理念 — 「あなたはなに主義」の分類学とそのアンケート結果に照らして—」『経済教育』第 35 号、4-9 頁、所収
- [100] 「近代と公共性 ハーバーマス批判の試み」遠藤薫・佐藤嘉倫・今田高俊編『社会理論の再興 社会システム論と再帰的自己組織性を超えて』ミネルヴァ書房、2016 年 12 月刊行、111-134 頁、所収

【翻訳】

- [1] Deborah A. Redman, *Economics and the Philosophy of Science*, Oxford University

Press, 1991. → (単独訳) 浦上博達監訳: デボラ・A・レドマン著『経済学と科学哲学』文化書房博文社 1994.10.

[2] Peter Koslowski, Ethik des Kapitalismus mit einem Kommentar von James M. Buchanan, Tübingen, J.C.B.Mohr, 1995. → (山脇直司先生との共訳) P・コスロフスキー著『資本主義の倫理』→コスロフスキー・鬼塚雄丞・杉浦克己・松原隆一郎・山脇直司著『資本主義の倫理』新世社 1996.6.所収.

[3] Gerald P. O' Driscoll and Mario J. Rizzo, The Economics of Time and Ignorance: with a new introduction, Routledge, 1996. →橋本努/井上匡子/橋本千津子訳、G・オドリスコル/M・リッツォ著『時間と無知の経済学』勁草書房 1999.2.

[4] Roger Mason, The Economics of Conspicuous Consumption: Theory and Thought since 1700, Edward Elgar, 1998. →鈴木信雄/高哲男/橋本努訳、R・メーソン『顕示的消費の経済学』名古屋大学出版会 2000.

【その他】

[1]「社会学用語辞典」別冊アエラ MOOK『社会学がわかる』1996.2.

[2]山脇直司/橋本努「訳者あとがきならびに解説」『資本主義の倫理』新世社 1996.6.所収、217-228 頁.

[3]「経済学の行方を見晴らすには」『情況』1995年6月号.

[4]「情報革命に必要な倫理とは」CBS Center Flash, Cannon,1996.4.

[5]事典項目「ジェボンズ『経済学の理論』」「ピグー『ピグウ厚生経済学』」「ヒックス『価値と資本』」「マーシャル『経済学原理』」「ワルラス『純粋経済学要論』」「マンデヴィル『蜂の寓話』」、『社会学文献事典』弘文堂 1998、所収

[6]定義集「市場社会主義」「社会民主主義」「ヘゲモニー」「コーポラティズム」、井上達夫(責任編集)『岩波 新哲学講義7——自由・権力・ユートピア』岩波書店 1998、所収.

[7]辞典項目「リバタリアン」「ポパー」「ラカトシュ」「論理実証主義」「論理経験主義」「反証主義」「方法論的個人主義とホーリズム」、『経済思想史辞典』丸善出版 2000、所収.

[8]『図書新聞』経済時評、1998.1.~1998.12.

「カルト的経済倫理の時代——日本の経営システムの代替物か」1998.1.17.

「オカルト的新自由主義?——啓蒙時代の反啓蒙」1998.1.31.

「大蔵危機の意味——保守革命は可能か」1998.2.28.

「経済改革の思想的争点——四つの経済思想的立場」1998.3.28.

「経済論議の社会層的構図——経済学が生みだすサンチマン仮説」1998.5.2.

「経済学ニーズの矛盾——経済学部の長期低落傾向を考える」1998.5.30.

「近代世界システム論の構想力——ウォーラーステインをめぐって」1998.6.27.

「二〇世紀の社会主義——軍事的全体主義か」1998.7.25.

「市場のカオスを生きる——いま求められる経済倫理」1998.9.5.

「貨幣論を読む——新しい貨幣論の予兆か」1998.10.3

「貨幣論を読む(2)——貨幣論の新たな課題」1998.10.24.

「資本主義社会の新たな構想を求めて——市場を肯定しながら限定する」1998.12.5.

- [9] 「善を共有する回路はどこにあるのか——前田論文を読んで」『理論戦線』第 49 号,autumn,1996.
- [10] 「12・14 集会での発言から」(1997.12.14.フォーラムにおける講演発言記録) 新聞 SENKI、1998.1.1.号掲載→「『自由主義』を再検討する——第八回フォーラム 90s・第二分科会での討論から」『理論戦線』第 54 号, spring,1998.pp.7-28 に再録。
- [11] 「『下からの批判的合理主義』 vs 『成長論的合理主義』」 Popper Letters, 1998. vol.10. no.1.
- [12] 「闘う自由主義」『理論戦線』第 56 号,1998.autumn.→改訂版を『自由と市場への遠近法』(理論戦線別冊) 実践社,2000.3.へ収録。
- [13] 「民主主義」『哲学の木』講談社, 2000. 所収。
- [14] 事典項目「個人主義」「社会主義経済計算論争」「自由」「価値判断論争」「自由」「自由競争」「自由主義(リベラリズム)」「ゾンバルト」「ドラッカー、ピーター」「ハイエク」「開かれた社会」「フリードマン、ミルトン」「法の発見」「ポパー」「ボールディング、ケネス」「マーシャル、アルフレッド」「マネタリズム」「見えざる手」「ミーゼス、フォン」「立憲経済学」「リバタリアン(自由至上主義者)」「歴史主義」、『政治学事典』弘文堂、2000 所収。
- [15] 「自由主義の構想力①②③」『評論』1999.2(no.111), 1999.4(no.113), 1999.6(no.115). (日本経済評論社、月報) .
- [16] 「市場と知識——現代オーストリア学派の展望」『経済社会学会年報』no. XXI, 1999, 100-102 頁。
- [17] 「ロバート・ライシュ著『ザ・ワーク・オブ・ネーションズ』」大澤真幸編『ナショナルリズムの名著 50 冊』平凡社、2002 所収。
- [18] 「国立大学改革論——自由主義は何を批判しうるか」『アソシエ 21 ニューズレター』No.9, 2000.1.所収。
- [19] 「リベラリズムを考える 10 冊」『インターコミュニケーション』特集「21 世紀のための 500 冊/IC 版ブックガイド」33 号, 2000.5.所収。
- [20] 「ニューヨーク便り 2000 年 12 月」『創文』no.428, 2001.01-02, pp.37-42.
- [21] 「私の自由主義的大学改革プラン 今や平等主義が悪平等に転化している」 SENKI, 2001.7.15.
- [22] 「防衛本能による認識」『インターコミュニケーション』vol.39 号, 2002.1, winter, pp.159-160.
- [23] 「アメリカの帝国主義化を考える」『図書新聞』2001.12.11.
- [24] 「アイン・ランド(Ayn RAND)とは誰か?」『インターコミュニケーション』vol.40 号, 2002.3. spring, pp.32-33.
- [25] 「テロ事件一年後のアメリカ」『評論』2002.10, pp.8-9.
- [26] 「西友元町事件の考察」『しゃりばり』2002.12, No.250, pp.21-24.
- [27] 「若い世代が考える北海道の知事像 3 期連続は組織の腐敗を進める」『クオリティ』2003.2. 70 頁。
- [28] 【インタビュー】『『グローバル化』の思想潮流と今日的対応の問題点——ヘゲモニーへの対抗意識』『北海道大学大学院生協議会』2003.3, pp.14-18.

- [29]「秩序の空白を埋める市民感覚を養おう」(特集1 夏に読もう経済のセンスを磨く本)『経済セミナー』2003.8, No.583, pp.32-33.
- [30]「ウェーバー 近代合理主義と対決する社会学の始祖」『シリーズ Start Line2 子犬に語る社会学・入門』洋泉社 2003.10, pp.125-126.
- [31]「書評的省察：井上達夫のリベラリズムと向き合う」東京法哲学研究会 2003/11 のレジュメ (未発表)
- [32]「社会学用語辞典」別冊アエラ MOOK『新・社会学がわかる』2004.3. pp.150-158. (「社会学用語辞典」別冊アエラ MOOK『社会学がわかる』1996.2.の改訂版)
- [33]「インターネット利用の洞穴化を考える」慶応義塾大学アート・センター『ARTLET』News Letter vol.21, 2004.3.31, pp.4-5.
- [34]「羽入-折原論争への参入と応答：論争の第二ラウンドへ向けて」(未発表→HP に公表)
- [35]「社会主義経済計算論争」(pp.36-37) 「自由」(pp.38-41) 「ネオ・オーストリア学派」(pp.50-53) 「ハイエク著『隷従への道』」(pp.110-113) 「ミーゼス著『ヒューマン・アクション』」(pp.114-117) 「ハイエク著『法と立法と自由』」(pp.126-129) 「コラム：ニーチェとリバタリアニズム」(pp.178-182)：以上、森村進編『リバタリアニズム読本』勁草書房、2005年、所収.
- [36]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第一回 『自由な社会』ほど不自由なのか」『しやりばり』2004.4, No.266, pp.56-57.
- [37]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第二回 市場メカニズムを転用する」『しやりばり』2004.5, No.267, pp.52-53.
- [38]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第三回 自生化主義と近代人の自由」『しやりばり』2004.6, No.268, pp.54-55.
- [39]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第四回 境界人を救う自由主義国家」『しやりばり』2004.7, No.269, pp.46-47.
- [40]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第五回 臓器は誰のものか」『しやりばり』2004.8, No.270, pp.40-41.
- [41]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第六回 自由を放棄する自由？」『しやりばり』2004.9, No.271, pp.54-55.
- [42]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第七回 逞しき個人主義とは」『しやりばり』2004.10, No.272, pp.62-63.
- [43]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第八回 新自由主義の教育改革」『しやりばり』2004.11, No.273, pp.62-63.
- [44]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第九回 二風谷ダム問題を考える」『しやりばり』2004.12, No.274, pp.56-57.
- [45]「『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第10回 アイヌ共有財産問題を考える」『しやりばり』2005.1, No.275, pp.60-61.
- [46]「滑りやすい坂に立たされる——熟慮の帰結学」『創文』2005.1-2. No.472, 52-56頁
- [47]事典項目「コーポラティズム」「社会民主主義」「エリート」「社会主義」「マルクス主義」「近代(主義)」「管理社会」「対内道徳/対外道徳」「カリスマ」「対抗文化」「英雄」「グローバルイゼーション」「構築主義」「大学改革」「戦後民主主義」「官僚制」「全共闘」「心情

- 倫理／責任倫理」「ウェーバー」(以上、19項目)『現代倫理学事典』弘文堂 2006.11.
- [48] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第11回 市場の経済倫理』『しゃりばり』2005.2, No.276, pp.52-53.
- [49] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第12回 NHK分社化の案』『しゃりばり』2005.3, No.277, pp.50-51.
- [50] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第13回 「みんなぼっち」の自由』『しゃりばり』2005.4, No.278, pp.62-63.
- [51] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第14回 日本経済は不自由化している』『しゃりばり』2005.5, No.279, pp.58-59.
- [52] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第15回 大阪市職員厚遇問題』『しゃりばり』2005.6, No.280, pp.52-53.
- [53] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第16回 創造階級という自由人』『しゃりばり』2005.7, No.281, pp.52-53.
- [54] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第17回 死ぬ権利としての自由』『しゃりばり』2005.8, No.282, pp.46-47.
- [55] 「経済社会学」宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房、2006.10. 174-177頁.
- [56] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第18回 昆布も売ります、病気も売ります』『しゃりばり』2005.9, No.283, pp.56-57.
- [57] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第19回 自由の遺伝子』『しゃりばり』2005.10, No.284, pp.72-73.
- [58] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第20回 売春業のライセンス化』『しゃりばり』2005.11, No.285, pp.74-75.
- [59] 「小さな政府の経済倫理」『経済セミナー』2006.1. No.612, 36-39頁.
- [69] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第21回 いじめ問題を考える』『しゃりばり』2005.12, No.286, pp.52-53.
- [70] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第22回 民を食う社会保険庁の病』『しゃりばり』2006.1, No.287, pp.74-75.
- [71] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第23回 環境自由主義：大規模林道は必要か』『しゃりばり』2006.2, No.288, pp.56-57.
- [72] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第24回 世の中選択肢が多すぎる』『しゃりばり』2006.3, No.289, pp.52-53.
- [73] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第25回 ライブドア事件を読む』『しゃりばり』2006.4, No.290, pp.54-55.
- [74] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第26回 万能感としての自由』『しゃりばり』2006.5, No.291, pp.54-55.
- [75] 「21世紀最初の政治思想——ヒンメルファーブとシュトラウス」『創文』2006年6月号、No.487. 1-5頁.
- [76] 「第8巻序文」橋本努編集責任『経済思想 第8巻 20世紀の経済学の諸潮流』日本経済評論社、2006.6. pp.i-v.

- [77] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 27 回 ムハンマド風刺画問題』『しやりばり』2006.6, No.292, pp.48-49.
- [78] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 28 回 管理社会を是認する自由』『しやりばり』2006.7, No.293, pp.56-57.
- [79] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 29 回 一罰百戒の倫理的資本主義』『しやりばり』2006.8, No.294, pp.58-59.
- [80] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 30 回 ひびきの村にて響き合う』『しやりばり』2006.9, No.295, pp.56-57.
- [81] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 31 回 ベーシック・インカムと生活保護』『しやりばり』2006.10, No.296, pp.68-69.
- [82] 【座談会】「北大はグローバリズムを超える」高井哲彦+西部忠+大学院生諸氏+橋本努『リテラ・ポプリ』（北海道大学）2006, 28 号, pp.4-14.
- [83] 「経済学部でディベート大会を開催」『北大時報』2006.9, p.11.
- [84] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 32 回 9.11 事件から 5 年後の自由社会』『しやりばり』2006.11, No.297, pp.58-59.
- [85] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 33 回 ギークスの台頭』『しやりばり』2006.12, No.298, pp.54-55.
- [86] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 34 回 自由という希望の学園』『しやりばり』2007.2, No.300, pp.62-63.
- [87] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 35 回 覚醒剤の自由化』『しやりばり』2007.3, No.301, pp.44-45.
- [88] 「経済学部で『ディベート講演会』および『第 3 回ディベート大会』を開催」『北大時報』2007.1, 19 頁.
- [89] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 36 回 表現の自由か、知的財産権か』『しやりばり』2007.4, No.302, pp.56-57.
- [90] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 37 回 人体の売り方を工夫する』『しやりばり』2007.5, No.303, pp.38-39.
- [91] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 38 回 戦争の民営化を考える』『しやりばり』2007.6, No.304, pp.44-45.
- [92] 【インタビュー】「資質ある者のみが政治家になれる」『人間会議』2007 年夏号、pp.102-107.
- [93] 『『自由』で『不自由』な社会を読み解く 第 39 回<終> 教育基本法の改定問題』『しやりばり』2007.7, No.305, pp.36-37.
- [94] 「経済学部でディベート大会を開催」『北大時報』2007.12.
- [95] 【論説】「潜在能力イデオロギー」の呪縛——格差に敏感になる理由 時代相 2008 第 13 回』『北海道新聞』夕刊、2008.1.25. 7 頁.
- [96] 「資本主義の倫理的課題 やさしい経済-- 21 世紀と文明」『日本経済新聞』八回連載 2008.2.19.-3.3. 第一回「衝突」回避へ」2/19, 27 面、第二回「誤算の背景」2/20, 29 面、第三回「新保守主義の基盤」2/21, 27 面、第四回「ネオリベラリズム」2/25, 25 面、第五回「民主化を促す取引」2/26, 31 面、第六回「関税で統治改善」2/28, 25 面、第七回「設

- 計が重要に」2/29, 31 面、第八回（最終回）「トービン税」3/3, 21 面.
- [97] 「私の読書日記 第2回 古代インドに学ぶ」『経済セミナー』2008.5. 106-107 頁（隔月で一年間予定）
- [98] 「洞爺湖サミットへ向けての大学側の対応問題」 Jmail News Letters 26, 2008.3.26, 1 頁、所収.
- [99] 【インタビュー】「新自由主義は日本を貶斥社会に変えた」 Actio（アクティオ）, 2008.4.25. 6-7 頁.
- [100] 【対談】「サブカル・ニッポンの新自由主義」鈴木謙介氏とのライブ・トーク（2008 年 3 月 6 日にジュンク堂書店池袋本店にて）→TBS 文化系トークラジオよりネット配信 (<http://www.tbsradio.jp/life/cat199/>)
- [101] 秋葉原事件へのコメント『北海道新聞』2008 年 6 月 11 日朝刊
- [102] 【新聞記事・論説】「新たな公共性育む「装置」に 洞爺湖サミットに寄せて」『朝日新聞』2008 年 7 月 5 日夕刊、12 面
- [103] 【新聞記事】「秋葉原事件が映す当世」『朝日新聞』2008.8.28.朝刊
- [104] 「私の読書日記 第4回 日本発リバタリアニズム」『経済セミナー』2008.7. 100-101 頁.
- [105] 「思想テロとしての秋葉原事件」『本』講談社、2008.8. 58-60 頁.
- [106] 「私の読書日記 第6回 時代を開くディオニュソスの労働」『経済セミナー』2008.9. 118-119 頁.
- [107] 「私の読書日記 第8回 格差社会の労働を救済する」『経済セミナー』2008.11. 116-117 頁.
- [108] 「パズラーと思想の魂——ハイエク全集第Ⅱ期刊行によせて」『春秋』2008.12. 1-4 頁.
- [109] 【インタビュー記事】「自分は“何主義”か調べてみよう」『戦略的経営者』2008 年 12 月号、No.266, 40 頁.
- [110] 「台頭しつつある「創造階級」は創造活動のために消費する」『商工につぼん』2008 年 12 月号、20-21 頁.
- [111] 【対談】鈴木謙介×芹沢一也×橋本努→ポプラ社より刊行予定の著作の一部として.
- [112] 「私の読書日記 第10回 政治思想収穫の季節」『経済セミナー』2009.1. 130-131 頁.
- [113] 【ラジオ】「2009 年のチェ・ゲバラ」TBS 文化系トーク・ラジオ、2009 年 1 月 17 日（日） 夜 8 時～9 時 出演 鈴木謙介、橋本努ほか
- [114] 【インタビュー記事】「経済思想・危機を問う 「市場」は自生的成長の場」『読売新聞』2009 年 4 月 20 日、19 面、所収
- [115] 「なぜいま「ゲバラブーム」か」週刊『エコノミスト』2009 年 3 月 10 日号、77-79 頁.
- [116] 「連載 経済思想の巨人たち 第一回 自生的秩序へと導く「共感」～アダム・スミス」『商工につぼん』2009 年 4 月号、12-15 頁.
- [117] 【入試】秋葉原テロ事件に関する拙文の一部が、京都産業大学の文化学部の編・転入試の問題文に採用される。『京都産業大学 2010 年度入試要項』所収.

- [118]【入試】ドラゴン桜をめぐる拙文が、中央大学商学部入試の国語の問題文に採用される。『赤本 中央大学商学部』、および、『2010年受験用 全国大学入試問題正解 国語(私大編)』旺文社に掲載。
- [119]【入試】潜在能力をめぐる拙文が、公務員模試試験の問題文に採用される。『公務員オール模試』早稲田経営出版に掲載
- [120]【対談】萱野稔人×橋本努「『批評』の再設定 —— 〈一〇年代の論点〉とは何か」(構成：芹沢一也 司会：荻上チキ、宇野常寛)雑誌『PLANETS』vol.6. 192-205頁、2009年5月31日刊行、所収。
- [121]「経済思想の巨人たち 第二回 功利主義とロマン主義の交差 J.S.ミル」『商工につぼん』2009年5月号、12-15頁、所収。
- [122]「講演会 『経済倫理:あなたは、なに主義?』」『龍谷大学経済学論集』第48巻、第3-4号、2009年3月、213-235頁、所収。
- [123]【コメント】アナキズムについて「アナキズム再び つながり求め新たな運動」『朝日新聞』2009年6月11日夕刊、所収。
- [124]【音楽エッセイ】「第一回 ロックに目覚めたあの頃」『Actio』2009年7月号、23頁。
- [125]「経済思想の巨人たち 第三回 禁断の恋と革命思想 カール・マルクス」『商工につぼん』2009年6月号、12-15頁、所収。
- [126]【コメント】「今読むべき名著」道元著『正法眼蔵』岩波文庫(全四冊)特集『『古典』が今おもしろい!』週刊『東洋経済』2009年6月27日号、39頁、所収。
- [127]【音楽エッセイ】「第2回 音楽の中に故郷を見つける」『Actio』2009年8月号、23頁。
- [128]「経済思想の巨人たち 第四回 実業から生まれた自由経済の理論 デヴィッド・リカード」『商工につぼん』2009年7月号、14-17頁、所収
- [129]【音楽エッセイ】「第3回 マルチチュードは心して聴くべし」『Actio』2009年9月号、23頁、所収
- [130]「経済思想の巨人たち 第五回 人々を魅了する華麗なる天才 J.M.ケインズ」『商工につぼん』2009年8月号、14-17頁、所収
- [131]【音楽エッセイ】「第4回 内なる声の探求が他者との共振にいたる」『Actio』2009年10月号、23頁、所収
- [132]【音楽エッセイ】「第5回 ポストモダンの時代に背を向けた重厚な世界」『Actio』2009年11月号、23頁、所収
- [133]【音楽エッセイ】「第6回 芸術を盾に国家に挑戦する者たち」『Actio』2009年12月号、23頁、所収
- [134]【音楽エッセイ】「第7回 人類の最良の人々は不幸な人々と共にいる(ロマン・ロラン)」『Actio』2010年1月号、23頁、所収
- [135]【対談】宇野常寛×荻上チキ×橋本努「コードギアスをめぐって」『クリティカル・ゼロ』樹想社、所収。
- [136]用語解説「市場[いちば]」(特集 2010年代の新・常識)『現代用語の基礎知識 2010』24-25頁、2009年11月刊行、所収。

- [137]「経済思想の巨人たち 第六回 資本主義の発展を冷徹に観察する鬼才 ソースタイン・ヴェブレン」『商工につぼん』2009年10月号、14-17頁、所収
- [138]「経済思想の巨人たち 第七回(最終回) 市場を擁護する二〇世紀最大の経済思想家 フリードリッヒ・フォン・ハイエク」『商工につぼん』2009年11月号、14-17頁、所収
- [139]【新聞記事】「景気対策に手詰まり感」『朝日新聞』2009年1月28日、22頁、所収
- [140]【新聞記事】「雇用対策で必要なもの」『朝日新聞』2009年7月27日、12頁、所収
- [141]【音楽エッセイ】第8回「民族の心を揺さぶった音の魔術師」『Actio』2010年2月号、23頁、所収
- [142]【音楽エッセイ】第9回「ウィーンのスリートが生み出したフュージョンの巨匠」『Actio』2010年3月号、23頁、所収
- [143]【音楽エッセイ】第10回「韓国で見つけたハイパージャズの逸品」『Actio』2010年4月号、23頁、所収
- [144]【テレビ】BSフジテレビPRIME NEWS 一周年記念シンポジウムに参加。2010年4月4日13:00より放映される。
- [145]【音楽エッセイ】第11回「ハンガリーという「物語」を創った音楽 バルトーク(1)」『Actio』2010年5月号、23頁、所収
- [146]【入試】創造階級をめぐる拙文が、予備校模試に採用される。「2009年度、高3・高卒 直前講習 名大小論文テスト(法)」河合塾
- [147]【音楽エッセイ】第15回「土着の深みからひらける叙情的世界の境地」『Actio』2010年9月号、22頁、所収
- [148]【音楽エッセイ】第14回「革命的なリビドーを解き放つ音楽」『Actio』2010年8月号、22頁、所収
- [149]【音楽エッセイ】第13回「スピリチュアルなコーラスとジャズの比類なき融合」『Actio』2010年7月号、23頁、所収
- [150]【音楽エッセイ】第12回「国境を越え多様化し融合する民謡 バルトーク(2)」『Actio』2010年6月号、23頁、所収
- [151]「日本・世界の15テーマを「政治哲学」で徹底解明」(インタビュー協力記事)『東洋経済』「特集 実践的「哲学」入門」2010年8月14-21日号、38-49頁、所収
- [152]【音楽エッセイ】第15回「「生の真実」と向き合う勇気がないと聴けない」『Actio』2010年11月号、22頁、所収
- [153]【音楽エッセイ】第16回「自分の分身のような音楽に出会った」『Actio』2010年10月号、24頁、所収
- [154]【入試】「第六章 最高のトレッキングシューズを買え」『自由に生きるとはどういうことか』の一部が、『現代文問題総覧 平成20-22年度版』明治書院、に所収される。
- [155]「「最小不幸社会」って、どんな理想なの？」『朝日 WebRONZA』(朝日新聞社、ウェブ版論壇誌)2010年6月29日
- [156]「年金の半減か、消費税の増税か。その両方だ。」『朝日 WebRONZA』(朝日新聞社、ウェブ版論壇誌)2010年7月29日
- [157]「サンデル教授の「コミュニタリアニズム的」共和主義を斬る」『朝日 WebRONZA』

- (朝日新聞社、ウェブ版論壇誌) 2010年8月29日
- [158] 「フェイスブック社は、アップル社もグーグル社もしのぐ勢い」『朝日 WebRONZA』
(朝日新聞社、ウェブ版論壇誌) 2010年10月1日 (ライブドア・ニュースでも同時掲載)
- [159] 【音楽エッセイ】第17回「生の真実」と向き合う勇気がないと聴けない」
雑誌 Actio 2010年11月号、22頁、所収
- [160] 「反日の弁証法」『朝日 WebRONZA』(朝日新聞社、ウェブ版論壇誌) 2010年11月1日
- [161] 【音楽エッセイ】第18回「80年代という、幸せな時代からの贈り物」雑誌 Actio 2010年12月号、24頁、所収
- [162] 【音楽エッセイ】第19回「冷戦時代を駆けぬけた恋多き天才ヴァイオリニスト」雑誌 Actio 2011年1月号、24頁、所収
- [163] コメント「規範理論の核心部へ迫れ」宇佐美誠編『法学と経済学のあいだ』勁草書房、2010年11月刊行、191-195頁、所収
- [164] 「正義とは何か 大澤真幸×宮台真司「初対談」を論じます」『朝日 WebRONZA』(朝日新聞社、ウェブ版論壇誌) 2010年12月3日
- [165] 【インタビュー】「若手研究者へインタビュー3「自由って?」と思ったら読む本『自由に生きるとはどういうことか』で知る価値観の変遷』『仕事に効く! 人生が変わる! すごい本。インデックス』日経BPムック、2011年1月刊行、42-45頁、所収
- [166] 【インタビューと紹介】「あなたの正義」の話をしよう」『日経アソシエ』2011年新春号、所収予定
- [167] 【講演会】TBS ラジオ「文化系トークラジオ Life」プレゼンツ Life 現代ゼミナール vol.1 「承認社会の承認されない私」 @港区高輪区民センターホール 出演:鈴木謙介(関西学院大学准教授)、橋本努(北海道大学准教授)、澁谷知美(東京経済大学准教授)、速水健朗(ライター)、斎藤哲也(フリー編集者)ほかLife レギュラー陣 日時 2011年1月30日(日曜) 15:30開場 16:00開演 場所 港区高輪区民センター 区民ホール(250CAP) 全席指定 チケット料金2000円
- [168] 「「ロスト近代」の到来」『朝日 WebRONZA』『SYNODOS JOURNAL』『Livedoor News』2011年1月5日
- [169] 【音楽エッセイ】第20回「『チベットの死者の書』とモーツァルト」雑誌 Actio 2011年2月号、22頁、所収
- [170] 「「孤族」は自由社会のツケか? 孤族の国を考える(2)」『朝日 WebRONZA』『SYNODOS JOURNAL』『Livedoor News』2011年2月2日、配信
- [171] 【音楽エッセイ】第21回[最終回]「「無のものたち」! マルチチュードの夜明けを讃えよ」雑誌 Actio 2011年3月号、22頁、所収
- [172] 「奇跡のエジプト革命?」『朝日 WebRONZA』『SYNODOS JOURNAL』『Livedoor News』2011年3月1日、配信
- [173] 「革命社会から承認社会へ」『朝日ジャーナル』2011年3月15日刊、39-41頁、所収
- [174] 「東京電力福島第一原発の何が問題だったのか」『朝日 WebRONZA』『SYNODOS

- JOURNAL』『Livedoor News』2011年3月31日、配信
- [175]「原発に責任、持てますか?」『朝日 WebRONZA』『SYNODOS JOURNAL』『Livedoor News』2011年5月2日、配信
- [176]「東京電力福島第一原発の何が問題だったのか 検証その2」『朝日 WebRONZA』『SYNODOS JOURNAL』『Livedoor News』5月16日、配信
- [177]【インタビュー協力記事】「東電の本質」(一部)月刊『宝島』2011年7月号、116-117頁、所収
- [178]「大震災で私たちが試されていること。」『潮』2011年9月号、104-105頁、所収
- [179]【新聞記事】「大震災後の社会考える」(北海道フォーラムについて伝える記事)『朝日新聞』2011年5月30日、北海道版23頁、所収
- [180]【新聞記事】「電力供給に市場性導入を」(聞き手・佐野智子)『北海道新聞』2011年9月7日朝刊(札幌市内)、25頁、所収
- [181] 学会報告要旨「フォーマルとインフォーマルのあいだ 労働の再編とアンダーグラウンド」『経済社会学会年報』XXXIII、2011年、36頁、所収
- [182] 新聞記事「大震災後の社会考える」(北海道フォーラムについて伝える記事)『朝日新聞』2011年5月30日、北海道版23頁、所収
- [183] 新聞記事「原発頼らぬ未来描く」(北海道フォーラムの議論の整理・紹介)『朝日新聞』2011年6月4日、北海道版33頁、所収
- [184] 入試問題『自由に生きるとはどういうことか』の一部が、新潟産業大学、平成23年度一般入学試験後期日程の問題に採用される。『新潟産業大学2011入学試験問題集』教育出版、所収
- [185] 「グリーン・イノベーションと地域経済」シンポジウム「グリーン・イノベーションと地域社会システム」における報告、日本学術会議北海道地区会議市民公開講演会(北海道大学学術交流会館 2011年8月4日13:30-17:30)日本学術会議のニュースレターに掲載。
- [186] 新聞記事「電力供給に市場性導入を」(聞き手・佐野智子)『北海道新聞』2011年9月7日朝刊(札幌市内)、25頁、所収[PDF]
- [187] 学会報告要旨「フォーマルとインフォーマルのあいだ 労働の再編とアンダーグラウンド」『経済社会学会年報』XXXIII、2011年、36頁、所収
- [188] 「解説 マックス・ウェーバー著『権力と支配』」マックス・ウェーバー著『権力と支配』濱嶋朗訳、講談社学術文庫、2011年、所収
- [189] 「チャールズ・テイラー 世俗社会の苦難を直視する」大澤真幸編『3.11後の思想家25 シンキング・オー別冊01』左右社、197-207頁、所収
- [190] 座談会 定池祐季×藤井賢彦×佐伯浩×橋本努「明日への提言 若者が時代を変える」『リテラ・ポプリ』北海道大学広報誌・季刊、47号、31-35頁
- [191]入試問題 拙著『自由の社会学』の一部が、広島大学法科大学院の小論文試験の出題文に採用される。2012年1月14日実施
- [192] 拙著『自由の社会学』の一部が、神田外語大学の国語入試試験問題文に採用される。2012年度入試にて、『2012年度入試問題集』およびWebに掲載予定。
- [193] 【新聞記事】「世界の99%への想像力」『朝日新聞』夕刊、3頁、文芸/批評面、2012

年 4 月 17 日

[194] 「グリーン・イノベーション論(報告補遺)」『地域経済経営ネットワーク研究センター年報』第一号(北海道大学)2012 年 3 月、99-100 頁、所収

[195] 【ネット配信】「「エコロジカル・フットプリント」と人間開発——資源消費量を減らしながら、社会を発展させることは可能か」2012 年 4 月 23 日配信、朝日 WebRONZA | SYNODOS JOURNAL | BLOGOS |

[196] 「ロスト近代とは何か(1)」メールマガジン「アルファ・シノドス」vol.100(2012/5/15)、配信

[197] 拙著『自由に生きるとはどういうことか』の一部が、『現代文の力を底上げする本』(仮題)学研教育出版、2012 年 9 月刊行予定、に採用される。大学受験生向けの現代文学習用参考書

[198] 【模擬試験問題】拙著『自由の社会学』の一部が、「2013 年度 高 3・高卒 広大入試オープン 小論文」の一部に採用される。

[199] 【模擬試験問題】拙著『自由の社会学』の第五章「偶有性からの出発」の一部が、駿台予備学校、第一回全国判定模試(2012 年 5 月実施)の「国語」問題文に採用される。

[200] 「ロスト近代とは何か(2)」メールマガジン「アルファ・シノドス」vol.102(2012/6/15)、配信

[201] 「格差社会論とは何であったのか」メールマガジン「アルファ・シノドス」vol.104(2012/7/15)、配信

[202] 【新聞記事】インタビュー「冬の節電 専門家に聞く 「脱原発依存」の好機に」2012 年 11 月 3 日『北海道新聞』朝刊全道(総合) 5 ページ、所収

[203] 事典項目

「経済 economy(4,800 字)」

「自由 liberty(4,800 字)」

「知識人 intellectual(1,200 字)」

「ポリティカル・エコノミー political economy(1,200 字)」

「自由な社会 free society(1,200 字)」

「抵抗権 right of resistance(600 字)」

「形式合理性／実質合理性(600 字)」

「高田保馬 Takata Yasuma 1883-1972(600 字)」

「大塚久雄 Otsuka Hisao 1907- 1996(400 字)」

「折原浩 Orihara Hiroshi 1935 年-(400 字)」

「山之内靖 Yamanouchi Yasushi 1933 年-(400 字)」

「ケルゼン Hans Kelsen 1881-1973(400 字)」

「レオ・シュトラウス Leo Strauss 1899-1973(400 字)」

「テイラー Charles Taylor 1931 年-(400 字)」

『現代社会学事典』弘文堂、2012 年 12 月刊行、所収
本事典の編集協力者としても参加。

[204] 【予備校教材】『ロスト近代』(1)駿台、前期授業「阪大現代文」2013.4.-2013.7., (2)駿台、後期授業「国公立大現代文」2013.9.-2013.12.

- [205] 「ルードウィッヒ・フォン・ミーゼス 規律ある自由経済が安定をもたらす」『エコノミスト』シリーズ「温経知世」vol.68. 2013年2月12日号、54-55頁、所収
- [206] 【ネット配信】「大切なのは「お金」か「時間」か?—『学問の技法』番外編」アルファ・シノドス “ α -synodos” vol.117、2013年2月1日
- [207] 【インタビュー記事】「「勉強」ではない「学問」とは 「知」求め自分でもがけ 橋本努・北大大学院教授に聞く」『北海道新聞』全道朝刊、2013年3月11日、14頁、所収
- [208] 【入試問題】名古屋学芸大学、2013年度前期日程、学力検査「国語総合・現代文」に、拙著『自由の社会学』の一部が問題文として採用される。
- [209] 【入試問題】大阪大学、2013年度前期日程文系総合国語問題に、拙著『ロスト近代』の一部が問題文として採用される。
- 教材として再掲(1)Benesse マナビジョン大学入試ダウンロード 2013-2017年度
教材として再掲(2)『2014-大阪大学 文系 前期』駿台文庫
教材として再掲(3)「平成 25 年度大阪大学入学試験問題 現代文(前期日程)」代々木ゼミナール
教材として再掲(4)原安宏編「2013 年夏期講習会 原安宏のハイレベル国語」代々木ゼミナール
教材として再掲(5)「2013/2014 冬期直前講習会 阪大現代文予想問題演習」代々木ゼミナール、21-26 頁
教材として再掲(6)「2014 年新学年体験 Days【国語】」株式会社アップ 研伸館、33-34 頁
- [210] 「経済社会学会第 48 回全国大会をふりかえって」経済社会学会『ニューズレター』第 53 号、(2013.3.6.)、4 頁所収
- [211] 【新聞記事】「[ニュースの本棚] サッチャーの遺産 「社会的なるもの」の再興」『朝日新聞』2013年6月2日、13頁、所収
- [212] 【大会実行委員長挨拶】「経済社会学会第 48 回全国大会報告」『経済社会学会年報』XXXV 号、2013 年、3-4 頁、所収
- [213] 【概要】「フォーラム「3.11 後の環境と経済社会問題を考える」について」『経済社会学会年報』XXXV 号、2013 年、59-60 頁、所収
- [214] 【ネット配信】「新自由主義批判の難しさと北欧式新自由主義の到来」アルファ・シノドス “ α -synodos” vol.123、2013年5月1日
- [215] 【ラジオ】ニッポン放送 番組「菅原文太 日本人の底力」出演。拙著『ロスト近代』をめぐる討論。2013年7月14日(日) & 21日(日) 朝5時半から6時(ニッポン放送)。岐阜放送は、7月21日(日) & 28日(日) 22時~22時半の放送。ラジオ関西は、7月20日(土) & 27日(土) 朝5時から5時半の放送
- [216] 【インタビュー】「ロスト近代において公共性をいかに担保するか」『談』(特集 誰のための公共性?) no.98, Speak, Talk and Think, 2013年11月10日発行、.TASC, 37-61 頁、所収
- [217] 雑誌記事「あなたの『正義』の話をしよう」(再掲)日経 BP ムック『ビジネスパーソンのための教養大全 自分の幹を太くする 今、知るべき 20 分野+ α 』日経ビジネス アソシエ特別編集、24-25 頁、2013 年 8 月刊行

- [218] 【Interview (in Spanish)】 "Debates liberales en el Norte de Japon: Entrevista a Hashimoto Tsutomu (1967-)," in Adrian O. Ravier ed., *La Escuela Austriaca desde adentro, Historias e Ideas de sus Pensadores, Volumen III*, Madrid: Union Editorial, 2013, pp.387-413.
- [219] インタビュー[オピニオン]「増税は決めたいけれど 乏しい「正当性」、説得力なし」『朝日新聞』10月2日水曜日、朝刊、17面、所収
- [220] 【入試問題】畿央大学、2014年度入試問題(公募推薦入試問題)に採用される。「万能感としての自由」『自由の社会学』NTT出版、2010年刊行、243-247頁
- [221] 論文「(リプライ) 法と公共性--立法過程における四段階の公共空間」『法の理論』32号、特集《ケアと法》、成文堂、2013年11月1日発行、219-228頁、所収
- [222] 【ネット配信】「社会哲学2013年の収穫」荻上チキ責任編集“ α -Synodos” vol.138+139 (2013/12/01) 特集「2013年、学問はどう動いたか」所収
- [223] 【論稿】「2013年の経済倫理地図 あなたはなに主義?の政党分析」SYNODOS ジャーナル、WebRONZA、2013年12月10日(Tue)掲載
- [224] 【ラジオ】ニュース年録2013 あなたは何を支持しますか?
放送日 2013年12月31日(火) 午後6:00~7:00、進行:麻木久仁子、出演:橋本努(北海道大学教授)
- [225] 雑誌記事「あなたの『正義』の話をしよう」(再掲)日経ビジネス特別編集版『今、深めたい リーダーの教養』非売品(日経ビジネス定期購読を申し込んだ人へのプレミアム商品)、14-15頁、2013年12月刊行
- [226] 【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、2014年度、お茶の水女子大学の入試問題(前期試験の英語)に採用される。
同問題の再掲(1)『2015年受験用 全国大学入試問題正解 英語 国公立大学編』旺文社
同問題の再掲(2)「Benesse マナビジョン大学入試ダウンロード2014年度」に転載。
同問題の再掲(3)『2015-17年版 大学入試シリーズ お茶の水女子大学』(いわゆる赤本)に転載。
- [227] 【入試問題】拙著『自由の社会学』の一部が、2014年度、佛教大学の入試問題「国語」に採用される。
- [228] 【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、2014年度、北海道武蔵女子短期大学、一般入試前期試験(国語)、英文学科・経済学科、に採用される。2014年2月11日実施。
- [229] 【入試問題】拙著『自由の社会学』の一部が、2014年度、近畿大学の一般入試問題(国語)に採用される。ベネッセ「大学入試問題データベース2014年度 高校共通」に転載。
- [230] 【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、2014年度、滋賀県立石山高等学校特色選抜の小論文問題に採用される。[PDF]
- [231] 【入試問題】帝京平成大学、2014年度入試問題「国語」に「自由な社会はいかにして可能か?」(『社会学の知 33』所収)の一部が採用される。
- [232] 【入試問題】帝京大学、2014年度入試問題「国語」に『学問の技法』の一部が採用される。
- [233] 【入試問題】大阪学院大学、2014年度入試問題「国語」に『学問の技法』の一部が採用される。

- [234] 【模試試験問題】拙著『自由の社会学』の一部が、駿台中学生テストセンター「第2回高校受験公開模試 国語」の問題文に採用される。2013年8月25日実施。
- [235] 【入試問題】大阪大学で、2013年度前期日程文系総合国語問題に採用された拙著『ロスト近代』の一部が、以下に再掲。
- (1) 『2015 大阪大学 文系前期』2014年8月
- (2) 『2013年度 高3 三石稔憲の現代文突破術!』河合塾
- [236] 【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、2014年度、岡山理科大学の入試問題(国語)に採用される。岡山理科大学のホームページに掲載(2014.7.1.-2015.6.30.)
- [237] 【新聞インタビュー記事】「月曜討論 新大学生に贈る「教養論」 試練乗り越えるツール」『北海道新聞』2014年5月5日(月曜日)、9面(オピニオン)、所収
- [238] 雑誌記事「あなたの『正義』の話をしよう」(再掲)『残念な人にならないための マナー・教養まるわかりBOOK』日経BPムック、2014年8月10日刊、44-47頁、所収(本書は、セブン-イレブンで販売される廉価縮小版。)
- [239] 【教材】拙著『ロスト近代』の一部が、『高3現代文TW 前期』(教育開発出版)2014年に掲載。
- [240] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第1回 新しい問いを発する」共同通信より各種地方紙への配信、2014年4月ごろから10回の連載
- [241] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第2回 受験勉強は学問の準備」共同通信より各種地方紙への配信。
- [242] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第3回 「知の快樂」を味わおう」共同通信より各種地方紙への配信。
- [243] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第4回 不良少年のような遊び心」共同通信より各種地方紙への配信。
- [244] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第5回 "ムダな読書"こそ必要」共同通信より各種地方紙への配信。
- [245] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第6回 時代を超えた良書を」共同通信より各種地方紙への配信。
- [246] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第7回 「私淑」する人いますか?」共同通信より各種地方紙への配信。
- [247] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第8回 意見は「作る」もの」共同通信より各種地方紙への配信。
- [248] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第9回 "情報のプール"広げよう」共同通信より各種地方紙への配信。
- [249] 【新聞記事】連載「学問は楽しい! 第10回 1千万円あれば何に投資?」共同通信より各種地方紙への配信。
- [250] 【転載】通信教育教材「中学生向けコース Z Study 添削問題編」、「今月のことば2月」のコーナー、2016年2月刊行予定。拙著『学問の技法』ちくま新書の150頁の文章が転載される。
- [251] 「まえがき」橋本努編『現代の経済思想』勁草書房、2014年10月30日刊行、i-iv頁、所収。

[252] 【コラム】

「視野狭窄の効用」橋本努編『現代の経済思想』勁草書房、2014年、60頁、所収。

「信頼ホルモン「オキシトシン」」同書、85頁、所収。

「地理学的批判理論」同書、139頁、所収。

「繁栄の法則」同書、171頁、所収。

「ベーシック・インカム」同書、258頁、所収。

「「グローバリゼーション」のトリレンマ」同書、285頁、所収。

「例外としての新自由主義」同書、365頁、所収。

「コモンウェルス」同書、422頁、所収。

「裏切りの効用」同書、472頁、所収。

「選択」同書、496頁、所収。

「コミットメント契約」同書、554頁、所収。

「ソーシャル・ビジネス」同書、580頁、所収。

[253] 【パンフレット】「橋本努編『現代の経済思想』刊行記念「キーワードで読む現代の経済思想」ブックフェアリスト」勁草書房、TAKE FREE、ブックフェアを開催する各書店に配布。2014年11月。

[254] 【新聞インタビュー記事】「シリーズ評論「地域の電力を考える④ 自然エネ開発拠点に」『北海道新聞』2014年11月9日(日曜日)、1面。

[255] 【入試問題】滋賀県立石山高等学校の小論文問題に採用された、拙著『学問の技法』の一部が、「学校別入試対策シリーズ」問題集(英俊社)に転載される。

[256] 【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、関東学院大学、2015年度入学試験「総合基礎」に採用される。

[257] 【入試問題】大阪大学の入学試験で用いられた拙著『ロスト近代』の一部が、学校法人高宮学園代々木ゼミナール「講座名：大学別過去問演習講座」に再録される。使用期間：2015年9月1日～2016年8月31日

[258] 【入試問題】拙著『自由の社会学』の一部が、佼成学園大学中学校入試試験問題「国語」2015年度に採用される。

[259] 【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、北九州市立大学、外国語学部中国学科、小論文の入試問題、2015年度に採用される。

[260] 「報告者へのコメント」『学術の動向』「特集2 グローバル化時代における民主的統治とは」2015年3月号、Volume20, Number3, 88-90頁、所収

[261] 「ピケティ『21世紀の資本』——グローバル化した世界を変革するための「大きな物語」」シノドス(SYNODOS)2015.03.27 Fri、および Blogos (いずれもネット掲載)

[262] 「トマ・ピケティ『21世紀の資本』——100年先を見据えた政治変革という、人類の英知が問われている」『図書新聞』2015年5月2日、2面、所収

[263] 「9. 創エネ・省エネのための新しいライフスタイルに向けて」『さっぽろ エネルギーの未来』札幌市市長政策室政策企画部(エネルギー政策統括担当)、69-72頁、所収
冊子は札幌市の市役所・区役所・区民センターで配布するほか、ホームページで公表
<http://www.city.sapporo.jp/energy/taikou/>

[264] 報告書「福祉国家の哲学的基礎」+コメンテーター(斉藤尚)とのやりとり『一橋大学

- 経済研究所規範経済学研究センター設立シンポジウム「規範経済学の課題と方法」報告書』
2015年1月30日(金)一橋大学佐野書院、39-51頁、所収
- [265]【入試問題】大阪大学で、2013年度前期日程文系総合国語問題に採用された、拙著『ロスト近代』の一部が、以下に再掲
『2016・大阪大学 文系 前期』駿台文庫、2015年8月
- [266]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、平成27年度日本留学試験(第一回)の試験問題「日本語：読解」に採用される。2015年6月21日実施。同問題は、日本および韓国にて、過去問題集に収録予定。同試験は、独立行政法人日本学生支援機構によって実施された。
- [267]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、島根県立大学短期大学部、推薦・自己推薦・社会人特別選抜試験、総合文化学科、小論文問題、2015年度に採用される。
- [268]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、岩手県立大学、ソフトウェア情報学部、推薦入試問題(一般、震災特別推薦入試、および、専門学校・総合学科)、2015年度に採用される。
- [269]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、新潟中央短期大学、幼児教育科、推薦入試問題、2015年度に採用される。
- [270]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、Z会通信教育「大学受験 直前演習期 阪大 Z Study 添削問題・解答解説 2月号(国語テキスト)」の教材に採用される。2016年2月から一年間掲載。
- [271]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、山梨学院大学、B方式、国語の入試問題、2015年度に採用される。
- [272]【学力診断テスト教材】拙著『学問の技法』の一部が、ベネッセコーポレーション「学力診断問題 2015-2017年度 中学共通」に採用される。
- [273]【中学生/高校生向け教材】拙著学問の技法の一部が、河合塾『2014年度1学期 中3私立速習 国語』『2014年度1学期 中3私立速習コース 国語問題』『2014年度 夏期講習 高1 言語的思考力』に採用される。
- [274]【インタビュー構成記事】「「ぼくはぼくだ」は承認されないのか～エヴァンゲリオンをめぐる論点」石岡良治(批評家)、橋本努(北海道大学大学院教授)、坂村健(東京大学大学院教授)、週刊「アエラ(AERA)」2015年8月31日、37号、35-37頁、所収
- [275]【鼎談】「経済学は、どこから来て、どこへ向かうのか？」岩井克人+若田部昌澄+橋本努『総力ガイド! これからの経済学 マルクス、ピケティ、その先へ』経済セミナー増刊号、2015年9月刊行、4-17頁、所収
- [276]「労働についての一考察--理想の仕事とは何か」『経済社会学会年報』Vol.37, 2015年、148-151頁、所収
- [277]【中学生向け教材】拙著学問の技法の一部が、ベネッセコーポレーション「学力診断問題 2016-2018年度 中学共通」に採用される。
- [278]「憲法改正を視野に入れた立憲主義は、いかなる価値に服すべきか--安保法制案はまだ熟していない」α-シノドス(ネット配信)、Vol.186+187 特集:立憲主義と民主主義、2015年12月20日、所収
- [279]【教科書】拙著『ロスト近代』の一部が、高等学校の国語教科書図書『精選現代文B』

に所収予定、2018年4月から2023年3月を予定

[280]【試験問題】拙著『学問の技法』の一部が、秋田県版学力診断問題、2015年度、中学三年、第八回、に採用される。

[281]【対談】「内田隆三×橋本努 都市の潜在能力 ロスト近代・ヘテロトピア・自然の多産性」『city & life』no.116, Mar-Jun 2016, 20-27 頁、所収

[282]【入試問題】拙著『学問の技法』の一部が、西南女学院大学、2016年度入学試験「小論文」に採用される。

[283]【入試問題】拙著『ロスト近代』の一部が、愛知学院大学、2016年度入学試験「小論文」に採用される。

[284]【模試問題】拙著『学問の技法』の一部が、「V もぎ県立そっくり 12月2」平成27年度12月13日実施の問題文に採用される。

[285]【模試問題】拙著『学問の技法』の一部が、「V もぎ都立そっくり 12月2」平成27年度12月13日実施の問題文に採用される。

[286]「「ロスト近代」における資本主義の新たな駆動因」『TASC MONTHLY』No.483, 2016.3. 20-29 頁、所収

[287]「経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターで講演会「中国諸地域、経済移行期における経済倫理の経路依存」を開催」『北大時報』2016年2月号、所収

[288]【予備校資料】拙著『ロスト近代』の一部が、代々木ゼミナール「藤井健志のハイレベル現代文」の一部に採用される。使用期間：2016年8月30日～12月3日

[289]【模試試験】Z会「高2プレステージ模試 国語 問題冊子10月(全国の主な中高一貫校の高校生を対象に学校単位で行われる模試試験)に、拙著『自由の社会学』の一部が、問題文として採用される。

[290]曹希・橋本努「「中国経済移行期における経済倫理の経路依存」の概要と中国における経済倫理の変遷に関する考察」『地域経済経営ネットワーク研究センター年報』第五巻、57-63 頁、2016年3月31日発行、所収

[291]【中学生/高校生向けの教材】『学問の技法』および『自由に生きるとはどういうことか』の一部が、河合塾の教材『2015年度 1学期中3私立速習 国語』『2015年度 1学期中3私立速習コース 国語問題』『2015年度 夏期講習 高1パワーアップ読解力(学伸館)』に採用される。

[292]「南仏エクス・アン・プロヴァンス滞在とハン・サンジンの社会学」αシノドス(ネット配信)、vol.209(2016/12/1)、所収

【書評その他】

[1]「書評：D.レドマン著『経済学と科学哲学』」Popper Letters, vol.4 no.2. 1992.

[2]「川本隆史著『現代倫理学の冒険——社会理論のネットワークング』創文社 1995.1.」『週刊ポスト』1995.6.9.

[3]「渡辺幹雄著『ハイエクと現代自由主義』春秋社 1996.」『週刊読書人』1997.2.7.

[4]「20世紀の教訓」Popper Letters, vol.9 no.1. 1997.

[5]「ベスト・オブ・経済書!」への「推薦者の言葉」、『週刊ダイヤモンド』1997.12.20号、

142-45 頁。

- [6]「荒岱介著『行動するエチカ——反形而上学の冒険』社会思想社,1998.」『週刊読書人』1998.4.17.→『理論戦線』1998, Summer, no.55, pp.195-196.に再録。
- [7]「ベスト・オブ・経済書!」への「推薦者の言葉」、『週刊ダイヤモンド』1998.12.x.
- [8]「99年上半期読書アンケート」『図書新聞』1999.7.31.
- [9]「稲葉振一郎著『リベラリズムの存在証明』」『図書新聞』1999.9.25.
- [10]「99年下半期読書アンケート」『図書新聞』1999.12.25.
- [11]「ベスト・オブ・経済書!」への「推薦者の言葉」、『週刊ダイヤモンド』1999.12.25.
- [12]「荒岱介著『環境革命の世紀へ—ゼロ成長社会への転換』社会評論社」『図書新聞』1999.2.26.
- [13]『「ハイエク、ハイエクを語る」嶋津格訳、名古屋大学出版会』『週刊読書人』2000.4.14.
- [14]「2000年上半期読書アンケート」『図書新聞』2000.7.x.所収
- [15]インタビュー「教育を問う」第七部 改革への青写真(4)、日本経済新聞、2001.6.26, (1面)
- [15]エッセイ+書評 7冊『recoreco』vol.1, 2002.6, pp.84-86.
- [16]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.2, 2002.8-9, pp.92-95.
- [17]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.3, 2002.10-11, pp.78-81.
- [18]エッセイ+書評 8冊(今年売れた八冊)『いち押しガイド 2003』2002.11, pp.182-184.
- [19]エッセイ+書評 16冊『いち押しガイド 2003』2002.10-11, pp.198-202.
- [20]書評「羽入辰郎著『マックス・ヴェーバーの犯罪』」『朝日新聞』2002.12.15.
- [21]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.4, 2003.1-2, pp.74-77.
- [22]書評「北沢栄著『官僚社会主義』」『東洋経済』2003.2.8. 69頁.
- [23]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.5, 2003.3-4, pp.
- [24]書評「ウツ著『経済社会の倫理』」『東洋経済』2003.2.22.
- [25]書評「黒田明伸著『貨幣システムの世界史』」『東洋経済』2003.4.12. 56頁.
- [26]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.6, 2003.5-6, pp.84-87.
- [27]書評「中沢新一著『愛と経済のロゴス』」『東洋経済』2003.6.7. 78頁.
- [28]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.7, 2003.7-8, pp.68-71.
- [29]書評「エマニュエル・トッド著『帝国以後』」共同通信による地方新聞への配信
- [30]書評「建築の教科書」共同通信による地方新聞への配信 2003.7.
- [31]エッセイ+書評 10冊『recoreco』vol.8, 2003.9-10, pp.64-67.
- [32]書評「ナット・ヘントフ著『アメリカ、自由の名のもとに』」『東洋経済』2003.9.13. 57頁
- [33]書評「井上達夫著『普遍の再生』」『週刊読書人』2003.10.31, 4頁.
- [34]書評「エマニュエル・レヴィナス著『貨幣の哲学』」『東洋経済』2003.10.18. 96頁
- [35]エッセイ+書評 20冊『ことし読む本—いち押しガイド 2004』メタログ社 2003.11. 180-185頁.
- [36]書評「トニー・ローソン著『経済学と実在』」『東洋経済』2003.11.22. 58頁
- [37]書評「ロバート・ダール著『アメリカ憲法は民主的か』」『東洋経済』2003.12.27- 2004. 1.3. 合併号 105頁.

- [38]書評「マレー・ロスバード著『自由の倫理』『東洋経済』2004.2.28. 62 頁
- [39]書評「立岩真也著『自由の平等』『図書新聞』2004.6.19. 2 頁
- [40]書評「高田保馬著『勢力論』『東洋経済』2004.4.24. 82 頁
- [41]書評「山内昌之著『帝国と国民』『東洋経済』2004.6.26. 122 頁
- [42]書評「八木紀一郎著『ウィーンの経済思想』『経済セミナー』2004.8. No.595, 111 頁
- [43]書評「アイン・ランド著『水源』ビジネス社」共同通信による地方新聞への配信 2004.08.
- [44]書評「アイン・ランド著『水源』ビジネス社」『東洋経済』2004.
- [45]書評「大澤真幸著『帝國的ナショナリズム』青土社」『東洋経済』2005.2.5. 95 頁
- [46]書評 Bruce Caldwell, Hayek's Challenge: An Intellectual Biography of F.A. Hayek, Chicago: The University of Chicago Press, 2004. 『経済学史研究』(旧「経済学史年報」) 47-1, 2005.6. 115-117 頁
- [47]書評 Stephen D. Persons, Money, Time and Rationality in Max Weber: Austrian Connections, London: Routledge, 2003. 『経済学史研究』47-2, 2005.12. 172-173 頁.
- [48]書評「安藤英治[聞き手]・亀嶋庸一[編]・今野元[訳]『回想のマックス・ウェーバー——同時代の証言——』岩波書店」『週刊読書人』2005.9.23.号、3 頁.
- [49]書評「折原浩著『学問の未来——ヴェーバー学における末人跳梁批判』未来社」『東洋経済』2005.10.15. 144 頁
- [50]書評「桂木隆夫著『公共哲学とはなんだろう』勁草書房」『週刊読書人』2005.12.2.号、3 頁.
- [51]書評「デランティ著『コミュニティ』NTT 出版」『図書新聞』2006.6.24. 5 頁.
- [52]書評「アンドレ・コント＝スポンヴィル著『資本主義に徳はあるか』紀伊国屋書店」『週刊読書人』2006.9.22. 3 頁.
- [53]書評「野口雅弘著『闘争と文化』みすず書房」『図書新聞』2006.12.16, 2 頁.
- [54]書評「八代尚宏著『健全な市場社会への戦略』『東洋経済』2007.4.14, 125 頁.
- [55]書評「山田昌弘著『新平等社会』(未発表)
- [56]書評「ハーヴェイ著『新自由主義』『東洋経済』2007.6.2, 140 頁.
- [57]書評「ハーヴェイ著『ネオリベラリズムとは何か』『図書新聞』2007.6.2, 3 頁.
- [58]書評「小峯敦著『ベヴェリッジの経済思想』『東洋経済』2007.6.30, 142 頁.
- [59]書評「森元孝著『フリードリッヒ・ハイエクのウィーン』『社会学評論』Vol.58, No.2, 256-257 頁.
- [60]書評的考察「大屋雄裕著『法解釈の言語哲学』(未発表→HP)
- [61]書評的考察「山中優著『ハイエクの政治思想』(未発表→HP)
- [62]書評「大澤真幸著『ナショナリズムの由来』『東洋経済』2007.9.8, 140 頁.
- [63]書評「盛山和夫著『年金制度問題について考える』『東洋経済』2007.11.10, 133 頁.
- [64]書評「篠原雅武著『公共空間の政治理論』『図書新聞』2007.11.10, 5 頁.
- [65]書評「ガブリエル・タルド著『模倣の法則』『東洋経済』2008.1.19, 132 頁.
- [66]書評「雀部幸隆著『公共善の政治学』／折原浩著『マックス・ヴェーバーにとって社会学とは何か』(原理的な「礎」——凄まじい知的エネルギーの成果)『図書新聞』2008.3.15, 1 頁.
- [67]書評「マイケル・ゴールドマン著『緑の帝国』『東洋経済』2008.5.3, 174 頁.

- [68]書評「紺野登著『知識デザイン企業』『東洋経済』2008.5.24, 116 頁.
- [69]書評「稲葉振一郎著『「公共性」論』『図書新聞』2008.6.21, 1 頁.
- [70]書評「ウルリッヒ・ベック著『ナショナリズムの超克』『図書新聞』2008.11.8. 1 頁.
- [71]書評「ジル・ドスタレール著『ケインズの闘い』『東洋経済』2008.11.15, 152 頁.
- [72]書評「アイン・ランド著『利己主義の気概』/森村進編『リバタリアニズムの多面体』『東洋経済』2009 年 4 月 11 日、140 頁.
- [73]書評「佐藤方宣編『ビジネス倫理の論じ方』『図書新聞』2009 年 6 月 27 日号、6 頁、所収.
- [74]書評「『平山朝治著作集 全五巻』『東洋経済』2009 年 10 月 31 日号、139 頁、所収
- [75]書評「中野剛志著『自由貿易の畏』『図書新聞』2010 年 3 月 13 日号、5 頁、所収
- [76]書評「マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』『東洋経済』2010 年 3 月 29 日号、所収
- [77]書評「藤田菜々子著『ミュルダールの経済学 福祉国家から福祉世界へ』NTT 出版、「ミュルダール思想」の全体像を捉えた渾身作『経済セミナー』2010 年 6-7 月号、128 頁、所収
- [78]書評「マラッツィ著『資本と言語』柱本元彦訳、水嶋一憲監修、人文書院、2010 年、『図書新聞』2010 年 10 月 9 日(土)、1 面、所収
- [79]書評「ケインズ『ケインズ全集第八巻 確率論』佐藤隆三訳、東洋経済新報社『東洋経済』2010 年 8 月 7 日号、118 頁、所収
- [80]書評「アジット・K・ダースグプタ著『ガンディーの経済学』『東洋経済』2010 年 11 月 20 日号、158 頁、所収
- [81]書評「マクロウ著『シュンペーター伝』『東洋経済』2011 年 3 月 5 日、182 頁
- [82]書評「森直人著『ヒュームにおける正義と統治--文明社会の両義性』『創文』2011 年春号、No.1、10-12 頁、所収
- [83]書評「中倉智徳『ガブリエル・タルド 贈与とアソシアシオンの体制へ』『東洋経済』2011 年 6 月 25 日号、133 頁、所収
- [84]書評「宇野常寛『リトル・ピープルの時代』『東洋経済』2011 年 9 月 17 日号、146 頁、所収
- [85]書評「西谷修編『"経済"を審問する 人間社会は"経済的"なのか』『図書新聞』2011 年 9 月 17 日、1 頁、所収
- [86]書評「中倉智徳『ガブリエル・タルド 贈与とアソシアシオンの体制へ』『東洋経済』2011 年 6 月 25 日号、133 頁、所収
- [87]書評「西谷修編『"経済"を審問する 人間社会は"経済的"なのか』『図書新聞』2011 年 9 月 17 日、1 頁、所収
- [88]書評「宇野常寛『リトル・ピープルの時代』『東洋経済』2011 年 9 月 17 日号、146 頁、所収
- [89]書評「若森みどり著『カール・ポランニー 市場社会・民主主義・人間の自由』NTT 出版『東洋経済』2012 年 1 月 14 日号、110 頁、所収
- [90]書評「水野和夫著『世界経済の大潮流』太田出版『東洋経済』2012 年 5 月 26 日号、128 頁、所収

- [91]書評「マウリツィオ・ラッツァラート『〈借金人間〉製造工場』「借金奴隷」の実像を哲学的洞察力で解明」『東洋経済』2012年8月25日号、126頁、所収
- [92]書評「カール・ポランニー著『市場社会と人間の自由』逆境のなか語られる希望と理想」『日本経済新聞』2012年7月22日、21頁、所収
- [93]書評「小林正弥・菊池理夫編著『コミュニタリアニズムのフロンティア』勁草書房、2012年刊行 同じ制度構想をめぐる併存するコミュニタリアニズムとリベラリズム」『図書新聞』2013年2月2日、4頁、所収
- [94]書評「フレデリック・ロルドン著『なぜ私たちは、喜んで"資本主義の奴隷"になるのか?』杉村昌昭訳、作品社』『東洋経済』2012年12月22日号、108頁、所収
- [95]書評[英文] Campagnolo, Gilles: Criticism of Classical Political Economy: Menger, Austrian Economics and the German Historical School 『経済学史研究』2-13年1月、第54巻第2号、72-73頁、所収
- [96]書評「森村進『リバタリアンはこう考える』』『東洋経済』2013年4月27日-5月4日号、142頁、所収
- [97]書評「鈴木康治『消費の自由と社会秩序』社会評論社 2012年』『経済社会学会年報』XXXV号、2013年、245-246頁、所収
- [98]書評「ロナン・パラン、リチャード・マーフィー、クリスチアン・シアヴァニュー著『徹底解剖]タックス・ヘイブン グローバル経済の見えざる中心のメカニズムと実態』作品社、2013年』『東洋経済』2013年10月12日号、108頁、所収
- [99]書評「アンドレ・オルレアン『価値の帝国 経済学を再生する』藤原書店、2013年』『東洋経済』2014年1月18日、116頁、所収
- [100]書評「山本理奈『マイホーム神話の生成と臨界 住宅社会学の試み』岩波書店、2014年』『東洋経済』2014年4月5日、112頁、所収
- [101]書評「菊池理夫・小林正弥編著『コミュニタリアニズムの世界』勁草書房、2013年12月刊行』『図書新聞』2014年4月26日、第3156号、7面、所収。「コミュニタリアニズムの多様な世界に見通しを与える」
- [102]書評「仲正昌樹『精神論ぬきの保守主義』新潮社、2014年5月刊行』『波』(新潮社)、2014年6月号、74-75頁、所収。「二一世紀の新しい思想形態」
- [103]書評「ロバート・スキデルスキー、エドワード・スキデルスキー『じゅうぶん豊かで、貧しい社会』筑摩書房刊』『東洋経済』2014年11月8日号、126頁、所収。
- [104]書評「拙評「トッド著『帝国以後』」、「安藤忠雄ほか『建築学の教科書』」、「アイン・ランド著『水源』」が、共同通信文化部編『書評大全』三省堂、に所収予定
- [105]書評「中山智香子『経済ジェノサイド——フリードマンと世界経済の半世紀』平凡社、2013+服部茂幸『新自由主義の帰結——なぜ世界経済は停滞するのか』岩波新書、2013』『経済学史研究』56巻2号(2015年1月)148-149頁、所収
- [106]書評「トマ・ピケティ『21世紀の資本』みすず書房』『東京新聞』2015年2月8日、所収
- [107]書評「正村俊之著『変貌する資本主義と現代社会』』『社会学研究』第95号、2015年1月、151-155頁、所収
- [108]書評「キャス・サンスティーン著『恐怖の法則 予防原則を超えて』勁草書房、2015

- 年刊行『東洋経済』2015年4月11日号、113頁、所収
- [109]書評「佐々木俊尚『21世紀の自由論 「優しいリアリズム」の時代へ』NTT出版
『東洋経済』2015年8月1日号、111頁、所収
- [110]書評「榊原英資『戦後70年、日本はこのまま没落するのか』朝日新聞出版『東京新聞』2015年8月9日、9頁、所収
- [111]書評「坂本達哉著『社会思想の歴史』『社会思想史研究』No.39, 2015年、246-249頁、所収
- [112]書評「ポール・オームロッド『経済は「予想外のつながり」で動く』『東洋経済』2015年11月21日号、138頁、所収
- [113]書評「マーク・ブライス『緊縮策という病 「危険な思想」の歴史』『東洋経済』2015年12月12日号、112頁、所収
- [114]書評「後藤玲子著『福祉の経済哲学』『図書新聞』2016年1月1日号、10面、所収
- [115]書評「カル・ラウスティアラ、クリストファー・スプリングマン著『パクリ経済』『東洋経済』2016.3.12号、123頁、所収
- [116]書評「本山美彦著『人工知能と21世紀の資本主義』『東洋経済』2016.2.20号、112頁、所収
- [117]書評「上村雄彦編『世界の富を再分配する30の方法』『東洋経済』2016年7月16日、127頁、所収
- [118]書評「カウシク・バサー著『見えざる手をこえて 新しい経済学のために』栗林寛幸訳『東洋経済』2016年12月3日、106頁、所収
- [119]書評「R.ボワイエ『作られた不平等 日本、中国、アメリカ、そしてヨーロッパ』『東洋経済』予定

【参考：拙著『自由の論法』に対する書評など】

- [1]週刊読書人 1995.2.10.「ふりずむ：自由主義の春へ」
- [2]週刊読書人 1995.2.17.池上修「読みごたえのある刺激的な力作——オーストリア学派と体制選択問題」
- [3]図書新聞 1995.3.11.松原隆一郎「危機管理が希薄な行政の無頓着さ——悪しき法治主義の蔓延する理由を考える上で参考となった橋本努『自由の論法』」
- [4]産経新聞 1995.4.18.「自由の論法——率直で骨太な議論展開」
- [5]『情況』1995.5.平山朝治「書評——自由の論法」147-150頁
- [6]『創文』1995.5.井上達夫「方法から思想へ——一つの『歴史の始め方』」
- [7]『創文』1995.5.嶋津格「望ましきものと実行可能なものとの狭間で」
- [8]『経済学史学会年報』1995.10.東清二郎
- [9]『自由な社会の条件』ライブラリー相関社会科学3号、1996.7.杉浦克己
- [10]『自由な社会の条件』ライブラリー相関社会科学3号、1996.7.松原隆一郎
- [11]『一橋大学経済研究所紀要』1996.7.嶋津格
- [12]『法律時報』67巻13号（日本評論社）「学界回顧：法哲学」1995.12.亀本洋
- [13] Popper Letters （日本ポパー哲学研究会）1996.6.vol.8.no.1.萩原能久

- [14]萩原能久「非正当化主義政治学序説」『法學研究』（慶応大学）第 68 卷第 7 号 1995.7.
- [15]盛山和夫「橋本努著『自由の論法』」『社会学評論』Vol.47, No.4., 1997.